茨田イチョウまつりは今年 19 回目をむかえる、地域住民、地域で活動する団体、学校、企業などと、行政が協力して実施している、手づくりのおまつりです。いきとどかないこともあるかもしれませんが、一緒に楽しいおまつりにしましょう！！





パネル展示やステージでの活動紹介スピーチ風景



堤防より会場を望む

## *点野(しめの)の地名*

対岸に宇多天皇（867-931）の鳥養院離宮(摂津市鳥飼)があり、ここは天皇が鷹狩りをするお狩場でした。天皇がつかうお狩場は周囲との境界にしめ縄をし、人の立ち入りを禁じたことに由来します。

## *茨田(まった)樋(ひ)遺跡(いせき)*

農業用水や生活用水を引き込むための樋門は、枚方市から毛馬（大阪市都島区）までに８ヶ所あったのですが、台風など大水時に決壊の恐れがあるので昭和初期にすべて廃止されました。現在残っているのは、明治３８年に造られ、昭和５年に廃止された**「茨田樋跡」**のみとなっています。淀川沿いに新たに掘られた幹線水路にその役目が引き継がれるまで、池田・点野・対馬江・仁和寺など市内西地区をはじめ門真・守口市方面の人々の生活を支えていました。

川の文化を次世代へ継承するため、荒れた遺構を復元し、遺跡公園として整備されました。

## *茨田樋遺跡水辺(みずべ)公園(こうえん)*

人々の暮らしを支えてきた茨田樋と川の文化を、子や孫の時代に伝えたいという地域の方々の声が市民の輪へと広がり、寝屋川市、大阪府と協力し「茨田樋遺跡水辺公園」として復元整備されました。

平成 16 年度、地元自治会、寝屋川再生ワークショップ委員、ねや川水辺クラブなどの市民団体や摂南大学が参加するワークショップが実施され、人々の生活と川とのかかわりが深かった頃の里川の風情を再現する構想が練られました。基礎工事などは寝屋川市が施工し、丸木ベンチ、案内看板、松丸太護岸、石張り舗装、植栽などはワークショップ参加者や点野小学校の生徒さんが参加した**「市民工事」**でつくられました。



協働のシンボルともいえるこの公園には、120 余年の間、地域の人々の暮らしを見守ってきた大きなイチョウの木があります。毎年 11 月、イチョウの古木の下に「川」でつながる仲間たちが集い交流の場とする「茨田イチョウまつり」が開催されてきました。